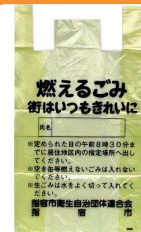


燃えるごみ

(資源ごみ以外の、燃える素材のもの)

重要!!



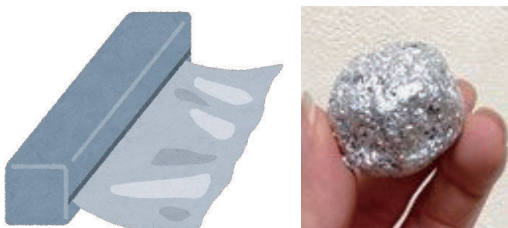
出せるものと出し方のポイント

1 燃えるごみで出せるもの



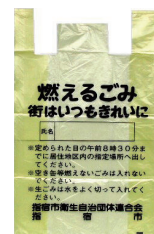
・生ごみ、リサイクルできない紙やプラスチック、布などの燃える素材でできているもの

4 丸めて2cm未満のアルミ箔^{はく}



・丸めて2cm以上になるアルミ箔は「燃えないごみ」に出す

2 土はよく落として混ざらないように



・草木は、よく土を落として乾かしてから指定袋へ



・アルミ皿やアルミガードは「燃えないごみ」に出す

出すときのルール



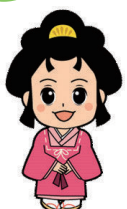
・しっかりと分別して、資源になるものは「資源ごみ」に出しましょう



・1回に出せる数は4袋までです
4袋を超える場合は次回へ繰り越す

豆

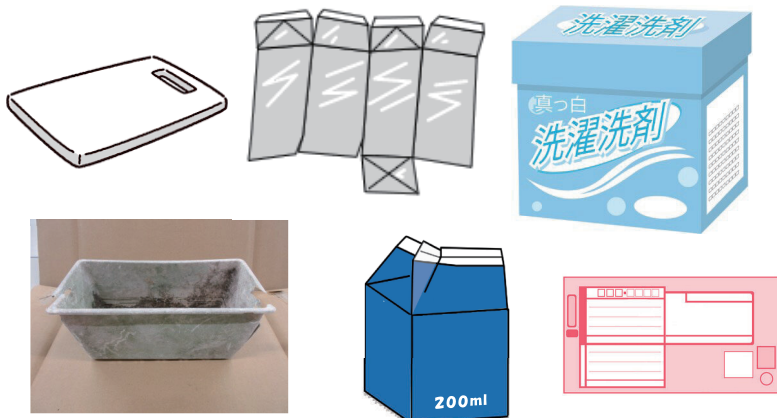
知識



生ごみの約80%は水分だと言われているんだよ。簡単に燃えてしまうティッシュでも水にぬれてしまうと燃えにくくなるように、焼却炉に入った生ごみは燃焼効率を大きく下げてしまうんだ。

燃えにくいものを燃やそうとすると、それだけ燃料費や時間も多くなり、焼却炉にも負担がかかってしまうよね。生ごみを「燃えるごみ」に出す時には「水気のひとしぼり」を心がけようね。

3 資源ごみに該当しない「燃える素材」のもの



【例】

- ・汚れているプラスチック製品
- ・5mm程度以上の厚みのあるプラスチック製品
- ・内側がアルミ加工している紙パック
- ・500ml未満の紙パック
- ・防水加工をしている紙
- ・においが強く染み付いた紙
- ・感熱紙や油紙などの特殊な紙

5 長いもの、大きいものは分解して袋に入れば「燃えるごみ」

豆



- ・燃える素材の大きなものも、小さく分解できれば指定ごみ袋に入れて「燃えるごみ」へ
- ・特大の指定袋に入らないものは「粗大ごみ」で出す

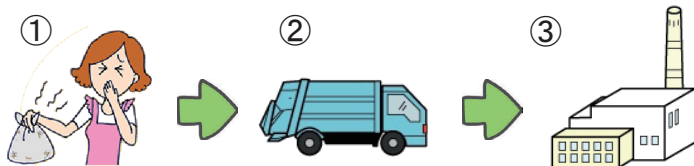
豆

生ゴミは
水気を
よくきる



水切りメリット

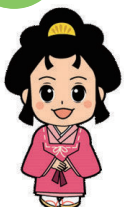
- ①生ゴミから水分が減ることで臭いが抑えられる
- ②ごみ袋が軽くなり、運搬や作業がしやすくなる
- ③ごみ処理場の負担が減り、余計な経費が減る



- ・生ゴミを出す時はしっかり水切りを行いましょう

豆

知識



指宿広域クリーンセンターに持ち込まれた「燃えるごみ」は、「ごみピット」と呼ばれる場所に集められるんだ。集められた燃えるごみは、クレーンでつかんで「焼却炉」へ運ばれるんだけど、焼却炉の入口の幅は約「1m」だから、それ以上大きなものは引っかかってしまって焼却炉へ入らないんだ。

「特大の指定ごみ袋」に入らないような大きなものは、「破碎機」で小さく砕いたあとに焼却炉に入れられるんだよ。